

日常生活における他者操作方略尺度の妥当性の検討(1)

○木川智美¹⁾・井今城周造²⁾

(1 松山東雲短期大学保育科・2 昭和女子大学人間社会学部)

問題と目的

木川・今城(2020)は、他者操作を「諸個人が自らの意図の通りに、他者に何かをさせようとする際に用いる手段」と定義し、圧力・策略・率直の3因子を見出した。

木川・今城(2020, 2021)では他者操作方略尺度の構成概念妥当性の検討を行うため、他者操作と日本語版 Short Dark Triad(下司・小塩, 2017)および日本語版 Ten Item Personality Inventory(小塩・阿部・カトローニ, 2012)との偏相関を求めた。木川・今城(2020, 2021)を通して、圧力的操作はサイコパシー傾向と正の偏相関、協調性と負の偏相関、策略的操作は、マキャベリアニズムと正の偏相関、勤勉性と負の偏相関、率直的操作は、外向性と正の偏相関が見られた。

これらの結果により、他者操作方略尺度の下位尺度の一定の妥当性が示されているが、本研究では調査対象者を増やし、さらなる妥当性の検討を行うことを目的とした。

方法

調査協力者 Web 調査会社モニターの大学生 302 人(男性 145 人: $M=20.76$, $SD=1.56$; 女性 157 人: $M=20.94$, $SD=1.72$)であった。

調査時期 2020 年 1~2 月に実施した。

質問紙 日常生活における他者操作方略尺度(木川・今城, 2020)、日本語版 Short Dark Triad(下司・小塩, 2017)、Big Five 尺度短縮版(並川・谷・

脇田ら, 2012)であった。

結果と考察

他者操作方略の他の2つの方略を統制変数とした偏相関係数を算出した(Table 1)。

圧力はサイコパシー傾向および自己愛傾向と正の偏相関、マキャベリアニズムと負の偏相関が見られた。策略はサイコパシー傾向およびマキャベリアニズムと正の偏相関、率直はサイコパシー傾向と負の偏相関、マキャベリアニズムと正の偏相関が見られた。率直は Big Five の情緒不安定性を除くすべての下位尺度と正の偏相関が見られた。これらの結果は木川・今城(2020, 2021)とほぼ同じ結果である。なお、本研究では、木川・今城(2020, 2021)と異なり、圧力とマキャベリアニズムとの間に負の偏相関が見られた。マキャベリアニズムが高い人は、ポーズや演技で圧力をかけることはあっても、本気で相手に何かを押しつけることはむしろない、とも解釈できよう。また率直がサイコパシー傾向と負の関連があることは、木川・今城(2020)で新しく概念化された率直的操作の構成概念妥当性を示している。なお、本研究では木川・今城(2020, 2021)では見られなかった、率直と誠実性との間にも正の関連が見られ、率直的操作の適応性が再確認された。

今後の課題として、他者操作方略尺度の併存的妥当性や、外的基準との関連などについて、さらに検討する必要がある。

Table 1 他者操作方略とパーソナリティ変数との偏相関係数

	圧力的操作	策略的操作	率直的操作
日本語版 Short Dark Triad			
サイコパシー傾向	.31 ***	.18 **	-.19 **
マキャベリアニズム	-.28 ***	.33 ***	.13 *
自己愛傾向	.27 ***	.03	.03
Big Five 尺度短縮版			
外向性	.05	.02	.29 ***
誠実性	.12 *	-.21 ***	.11 *
情緒不安定性	-.19 **	.12 *	-.01
開放性	.04	-.04	.35 ***
調和性	-.20 ***	.01	.17 **

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

注; Big Five 尺度短縮版(並川ら, 2012)の「誠実性」「情緒不安定性」「調和性」は、TIPI-J(小塩ら, 2012)の「勤勉性」「神経症傾向」「協調性」に各々該当する。